

大項目	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1 一般管理費の削減							
事業名	(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化							
【年度計画】								
1) 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。								
2) 国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。								
3) 機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。								
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】								
1) ・財務会計システムを更新し、24年4月より新システムの正式運用を開始した。従来は別システムまたは紙により処理していた購入依頼、科学研究費、旅費処理等の会計処理・管理を一元化し、財務会計事務が効率化した。 ・web 給与明細システム（23年5月給与より正式運用開始）について、より一層の利用を推進した結果、25年3月給与支給日現在の利用率は67.7%（機構全体の職員842人のうち570人）となった。前年同月の45.6%から22.1%増であり、給与事務が効率化した。								
2) 国立博物館各館及び各研究成果公開施設における24～28年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。								
3) 機構共通システム運用の基盤となるネットワークである機構 VPN (Virtual Private Network) について見直しを行った。25～26 年度にかけて、セキュリティ強化、安定性向上を目的とした機構内ネットワークの統合を行うこととし、そのための準備を進めた。各施設内 LAN は従来通り各施設管理とし、インターネット接続を一元化する方向で検討中である。また、機構共通グループウェア「サイボウズ」の機構全体での運用を継続し、機構内の連絡調整・情報共有を推進した。								
【補足事項】								
3) ・機構グループウェア「サイボウズ・ガルーン3」のバックアップサーバーを、奈良文化財研究所へ設置した（25年1月）。 ・グループウェア「サイボウズ・ガルーン3」24年度利用ユーザ数(括弧内は23年度)： 機構全体 1,000(960) 内訳：本部事務局・東京国立博物館 230、京都国立博物館 100、奈良国立博物館 60、九州国立博物館 150、東京文化財研究所 150、奈良文化財研究所 250、アジア太平洋無形文化遺産研究センター20、予備 40(0)								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合的評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。								
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。								
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。								
具体的には下記の措置を講じる。								
(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化								
(2) 計画的なアウトソーシング								
(3) 使用資源の減少								
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)								
・廃棄物減量化								
・リサイクルの推進								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 一般管理費の削減							
事業名	(2) 計画的なアウトソーシング							
<p>【年度計画】</p> <p>以下の業務の外部委託を継続して実施する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館業務の一部</li> </ul> <p>(京都国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看視案内業務及び設備保全業務の一部</li> <li>・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務</li> <li>・情報システムの運用・管理・開発業務の一部</li> </ul> <p>(奈良国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物設備の運転・管理業務</li> <li>・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務</li> </ul> <p>(九州国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物設備の運転・管理業務等</li> <li>・警備業務、看視案内業務及び清掃業務</li> </ul> <p>(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等</li> </ul>								
担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課 東京文化財研究所研究支援推進部 奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長 田浦 宏己					
<p>【実績・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。</li> <li>・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務の全てを外部委託している。</li> <li>・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。</li> <li>・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。</li> </ul>								
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部委託が可能な業務については、民間委託を進めている。</li> <li>・また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約等の実施により、業務の効率化を図っている。</li> <li>・民間委託の増加に伴い、契約手続・監督等の業務が増加しているが、人員削減が急速に進んでいるため、業務継続に必要なノウハウが館に蓄積されないなどの問題が生じている。</li> </ul>								
【定量的評価】 項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合的評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。</p> <p>このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には下記の措置を講じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化</li> <li>(2) 計画的なアウトソーシング</li> <li>(3) 使用資源の減少 <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減）</li> <li>・廃棄物減量化</li> <li>・リサイクルの推進</li> </ul> </li> </ol>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 一般管理費の削減							
事業名	(3) 使用資源の減少							
【年度計画】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー 1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き削減に努める。(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)</li> <li>・廃棄物減量化 1) 使用資源の削減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。</li> <li>・リサイクルの推進 1) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。</li> </ul>								
担当部課	本部財務課(取りまとめ) 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 田浦 宏己			
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。</li> <li>・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。</li> <li>・リサイクルの実施(廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等)</li> </ul>								
使用資源の推移等								
光熱水料金 (千円)								
	23年度	24年度	差額	増減率				
電気料	359,663	414,971	55,308	15.38%				
水道料	82,330	83,236	906	1.10%				
ガス料	127,175	129,406	2,231	1.75%				
計	569,168	627,613	58,445	10.27%				
※電気料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰及び再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価及び燃料調整費の上昇により使用料金ベースで増額となった。								
	23年度単価(円/kwh)	24年度単価(円/kwh)	差(円/kwh)	単価影響額(千円)				
電気料特殊要因	14.3	17.1	2.8	67,976				
※水道料は、京都国立博物館における平常展示館工事業者の水道利用増により、増加した。								
※ガス料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による契約単価の上昇により使用料金ベースで増額となった。								
	23年度単価(円/m <sup>3</sup> )	24年度単価(円/m <sup>3</sup> )	差(円/m <sup>3</sup> )	単価影響額(千円)				
ガス料特殊要因	73.7	81.7	8	12,670				
特殊要因を考慮した光熱水料金 (千円)								
	23年度	24年度	差額	増減率				
電気料(※)	359,663	346,995	△12,668	△3.52%				
水道料	82,330	83,236	906	1.10%				
ガス料(※)	127,175	116,736	△10,439	△8.20%				
計	569,168	546,967	△22,201	△3.90%				
※電気料・ガス料については特殊要因を勘案して算定。								
廃棄物排出量 (kg)								
	23年度	24年度	差額	増減率(%)				
一般廃棄物	255,976	245,438	△10,538	△4.12%				
【補足事項】								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年	20	21	22	23
光熱水量	3.90%減	年間1.03%減	S	変化	2.3%減	8.8%減	4.24%減	1.58%減
総合的評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。</p> <p>このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には下記の措置を講じる。</p> <p>(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 計画的なアウトソーシング</p> <p>(3) 使用資源の減少</p> <p style="text-align: center;">・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)      ・廃棄物減量化      ・リサイクルの推進</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 一般管理費の削減							
事業名	(4) 自己収入の増大							
【年度計画】								
<p>独立行政法人整理合理化計画(19年12月24日閣議決定)の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。</p> <p>1) 機構全体において、入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。</p> <p>2) 機構全体において、寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。</p>								
担当部課	本部財務課(取りまとめ) 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長 田浦 宏己					
【実績・成果】								
1) 定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり△2.72%となり、目標を下回った。								
(単位：千円)								
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度					
自己収入基準額	884,252	894,510	904,886					
自己収入目標額	894,510	904,886	915,383					
自己収入実績額	1,002,524	821,470	880,271					
増加率	13.38%	△8.17%	△2.72%					
<p>※受託研究・受託事業を除く。</p> <p>※自己収入目標額は、前年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。</p> <p>※増加率は、自己収入基準額(前年度の目標額)に対する増加率。</p> <p>※自己収入実績額は、還付消費税額(260,696千円)を除く。</p>								
2) 下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。								
	目標値	平成 24 年度						
寄附金	226 件	438 件						
科学研究費補助金	76 件	88 件						
【補足事項】								
科研費採択件数は、「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」の件数である。								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
自己収入増加率	2.72%減	1.16%増	C	—	—	8.67%	13.38%	8.17%減
寄附金件数	438 件	226 件	S	—	—	290	314	393
科研費採択件数	88 件	76 件	A	—	—	86	81	76
総合的評価	S A ③ C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。</p> <p>このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には下記の措置を講じる。</p> <p>(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 計画的なアウトソーシング</p> <p>(3) 使用資源の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)</li> <li>・廃棄物減量化</li> <li>・リサイクルの推進</li> </ul>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	一部要注意							

中項目	2 給与水準の適正化等							
事業名	給与水準の適正化等							
【年度計画】 国家公務員の給与水準や手当を考慮した役職員の給与の適正化に引き続き計画的に取り組む。また人件費改革の取り組みを今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組む。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。 その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。								
担当部課	総務企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】 ・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成24年度においても平成21年度の率を据え置く方針が決定された。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。								
【補足事項】 ※1 レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費（法定外福利費）は13,559千円である。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。 ※2 ラスパイレス指数は事務・技術職員が96.5、研究職員が97.7となっている。								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
人件費削減率 (17年度比較)	—	17年度決算額に比して6年間で6%削減	—		—	—	—	—
総合的評価	S <b>A</b> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。 なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	3 契約の適正化の推進															
事業名	契約の適正化の推進															
【年度計画】																
<p>1) 契約監視委員会を実施する。</p> <p>2) 施設内店舗の貸付について企画競争を導入する。</p> <p>3) 民間競争入札を推進する。</p> <p>(東京国立博物館・東京文化財研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理・運営業務を継続して外部委託を行う。</li> </ul> <p>(東京国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>展示場における来館者対応等業務を継続して外部委託を行う。</li> </ul>																
担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 田浦 宏己											
【実績・成果】																
<p>1) 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 23 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。</p> <p>第 1 回契約監視委員会（24 年 11 月 30 日開催）</p> <p>第 2 回契約監視委員会（25 年 6 月 14 日開催予定）</p> <p>2) 東京国立博物館本館（ミュージアムショップ）、東京国立博物館黒田記念館（カフェ）及び奈良文化財研究所飛鳥資料館（ミュージアムショップ）において、企画競争を実施した。</p> <p>京都国立博物館（レストラン）、奈良文化財研究所平城宮跡資料館（ミュージアムショップ）、東京国立博物館（レストラン）及び奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については既に企画競争を実施済み。</p> <p>今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。</p> <p>3) ・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。</li> <li>列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。</li> </ul> <p>一般競争入札件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>23 年度</th> <th>24 年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>132 件</td> <td>136 件</td> <td>4 件</td> </tr> </tbody> </table>									年度	23 年度	24 年度	増減	件数	132 件	136 件	4 件
年度	23 年度	24 年度	増減													
件数	132 件	136 件	4 件													
【補足事項】																
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23								
一般競争入札件数	136 件	—	—		142	202	175	132								
総合的評価	S (A) B C F (S、F の理由)															
【中期計画記載事項】																
<p>「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。</p>																
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調															

中項目	4 保有資産の有効利用の推進							
事業名	保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 樋口理央					
【実績・成果】 1) 月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。 2) 撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケなび!)への登録を継続した。 3) ・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 ・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。 ・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。 ・森鷗外生誕150周年を記念して、総長室跡地に記念碑を設置した。								
【補足事項】 ○企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用(それに伴う収入増)を図った。 ・撮影件数増加による収入は昨年度を大幅に上回り、223件 35,607,000円となった。(昨年度実績185件 26,662,000円) ○撮影件数のさらなる増加のため ・インターネットロケーション検索サイト(ロケなび!)の申し込みプランを23年8月よりグレードアップ(掲載写真増、間取り図追加)したところ、撮影件数が劇的に増加した。今年度は、黒田記念館が耐震工事のため撮影に貸し出せないこととなったが、東洋館の改修が終了したため、代替としてアジアギャラリーや収蔵庫となっていた表慶館が撮影に使用できることとなった。そちらの告知もロケなび!を通じて迅速に対応ができたため、現在は閉館中の表慶館が有効に活用できることとなった。 ・劇的に増加した撮影への対応及び人件費を削減するため、撮影担当を一部外注化した。 ・上記「ロケなび!」編集の業界向け雑誌「Location Japan」(24年9月15日発売10月号)において特集記事を掲載、撮影件数の増加を図った。また、添付図版のとおり掲載ページの抜刷チラシも作成し、撮影利用者を中心に配布し、積極的にリピーター確保、かつ新規誘致にも努めた。 ・ロケハン(撮影下見)用のシートを作成し、当館ウェブサイトにアップすることにより、事前説明等の簡素化、イメージ図の多用により効率よく案内ができるようになった。 ・ロケスタッフへのきめ細かな対応と、更なるサービス向上の一環として、ロケ弁(弁当)業者の斡旋を開始した。 ・今まで撮影では使用していなかった「本館便殿」を撮影で使用できるよう、規程改正、特別料金を設定を昨年度行った。「本館便殿」での撮影受け入れは24年4月より実施。実績は1件と少ないものの、問い合わせは相当数にのぼる。 ○来館者に展示観覧と合わせてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。 ○イベント開催を来館者数が比較的小さい時期に行い、来館者数の増加に貢献した。 ○今後とも企業等のパーティー、講堂・茶室貸出しが増えるよう方策を検討したい。								
【定量的評価】								
項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
施設の有効利用件数	637件	—	—		574	341	538	618
うち有償利用件数	342件	—	—		238	262	256	341
総合的評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



ロケ地紹介用チラシ

中項目	4 保有資産の有効利用の推進																																														
事業名	保有資産の有効利用の推進																																														
【年度計画】 (博物館4施設) 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。																																															
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 植田義雄 部長 村上 隆																																												
【実績・成果】 1) 平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。 2) 平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。 3) 来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。																																															
【補足事項】 ○庭園(特別展示館前) ・全館休館期間中に、音楽イベント「音燈華 vol.3」を庭園にて開催し、大盛況であった。(来館者数 494 名) ・展覧会会期中にお客様が「庭園散策ガイド」を購入することで庭園のみの利用を可能とした。 ○茶室 ・当館に茶室が設けられていることが浸透しているようで、茶道愛好家の利用が多い。 ・アメリカンエクスプレスの会員を対象に文化財保護基金設立記念として「ミュージアム茶会」を開催し、盛況であった。 (参加者数 41 名) ・文化財保護基金チャリティ・エキシビジョン関連イベントとして、「緋色茶会」を開催し、盛況であった。 (3 日間開催 参加者数 492 名) ○講堂の建替に伴う措置 ・講堂は、平常展示館建替工事に伴いリニューアルオープンするまで使用できないため、「土曜講座」・「夏期講座」・「京都・らくご博物館」の開催会場は、館外の施設を利用し継続した。(詳細は処理番号 2212-2、2222-2 参照)  ○講堂の建替に伴う措置 ・講堂は、平常展示館建替工事に伴いリニューアルオープンするまで使用できないため、「土曜講座」・「夏期講座」・「京都・らくご博物館」の開催会場は、館外の施設を利用し継続した。(詳細は処理番号 2212-2、2222-2 参照)																																															
<table border="0"> <tr> <td>施設有効利用件数</td> <td colspan="3"></td> <td>使用料</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>茶室</td> <td>43 件(うち、有償 40 件、無償 3 件)</td> <td>406,050 円</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>講堂等</td> <td>10 件(うち、有償 2 件、無償 8 件)</td> <td>12,600 円</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>撮影利用</td> <td>6 件(うち、有償 4 件、無償 2 件)</td> <td>85,000 円</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>59 件(うち、有償 46 件、無償 13 件)</td> <td>503,650 円</td> <td colspan="5"></td> </tr> </table>								施設有効利用件数				使用料				茶室	43 件(うち、有償 40 件、無償 3 件)	406,050 円						講堂等	10 件(うち、有償 2 件、無償 8 件)	12,600 円						撮影利用	6 件(うち、有償 4 件、無償 2 件)	85,000 円						計	59 件(うち、有償 46 件、無償 13 件)	503,650 円					
施設有効利用件数				使用料																																											
茶室	43 件(うち、有償 40 件、無償 3 件)	406,050 円																																													
講堂等	10 件(うち、有償 2 件、無償 8 件)	12,600 円																																													
撮影利用	6 件(うち、有償 4 件、無償 2 件)	85,000 円																																													
計	59 件(うち、有償 46 件、無償 13 件)	503,650 円																																													
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																																							
施設の有効利用件数	59 件	—	—		57	35	59	42																																							
うち有償利用件数	46 件	—	—	29	26	44	35																																								
総合的評価	S (A) B C F (S、F の理由)																																														
【中期計画記載事項】 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。																																															
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																											



音燈華 vol.3 DEPAPEPE コンサート



中項目	4 保有資産の有効利用の推進							
事業名	保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員 森継明広					
【実績・成果】 1) 公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2) 奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3) ・地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。 ・(財)奈良県ビジターズビューローと連携し、「仏像と出逢うセミナー」として、講演及びなら仏像館を閉館後に観覧する特別鑑賞会(有料)を7回行った。								
【補足事項】 施設の利用 ○講座・講演会 公開講座(15回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(93回)、特別鑑賞会(16回)、文化財保存修理所特別公開等 ○世界遺産学習(35校) ○イベントの実施 ・講堂：まほろば寄席(2回)、特別展「解脱上人貞慶」親子観賞会、特別陳列「古事記の歩んできた道」関連企画「はじめてふれる古事記」、夏休み親子で学ぶ奈良世界遺産「東大寺の不思議、仏像の不思議をさぐる」、第64回正倉院展親子鑑賞会、特別陳列「お水取り」関連企画「お水取り「講話」と「粥」の会」、文化財保存修理所特別公開、お水取り展鑑賞とお松明 ・地下回廊：親と子のワークショップ「ほとけさまのきり絵をつくろう!」、奈良トライアングルミュージアムズ3館リレーミュージアムコンサート「しゃん・ふう(二胡)」、奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「仏像切り絵体験」・「写仏散華体験」 庭園・茶室：案内ツアー(2回)、「おん祭と春日信仰の美術」茶会 ○会場提供 ・講堂：香港城市大学学生研修、南都和唱会研修、(社)情報科学技術協会研修、能楽学会「世阿弥忌セミナー」、高速道路の交通データ利用に関する勉強会、奈良文化財研究所文化財担当者専門研修 ・地下回廊：ミュージックフェストなら2012、 ・仏教美術資料研究センター：切り絵とコンサート「なら結び」、結婚式、コンサート「まほろばタンゴナイト」、なら瑠璃絵関連コンサート「夜参りライブ」、コンサート「音燈華 ジェスカ・グランパール in Museum」 ・庭園：和歌劇「ヤマトタケル」 ・茶室：茶会 ・敷地内：なら燈花会、ならファンタジー YAMATO 新話、言霊と音霊の夜会、野点の茶会、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供、なら瑠璃絵								
								
夏休み親子で学ぶ奈良世界遺産(講堂)				案内ツアー(茶室・庭園)				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
施設の有効利用件数	139件	—	—		84	59	146	144
うち有償利用件数	39件	—	—		23	21	31	28
総合的評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	4 保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

**【年度計画】**  
 (博物館4施設)  
 1) 講座・講演会等を開催する。  
 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。  
 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

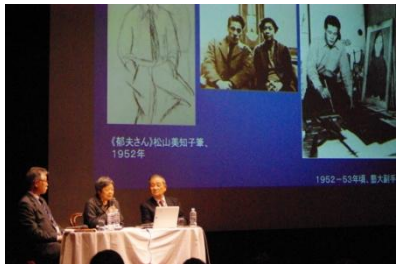
担当部課	交流課	事業責任者	交流事業室事務主査 藤崎秀典
------	-----	-------	----------------

**【実績・成果】**  
 (博物館4施設)  
 1) 文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展に関連する講演会を開催した。  
 2) ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。  
 3) 国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。

**【補足事項】**  
 (博物館4施設)  
 1) ・文化交流展(トピック展)関連イベント  
     トピック展示「茶の湯を楽しむV」関連茶会(期間:10月6、7、13、14日、参加者数:494名)等を開催した。  
     ・特別展関連イベント  
     「平山郁夫シルクロードの軌跡-人類の遺産にかけた画家の人生-」関連記念対談「～平山郁夫の長い旅～」(期間:4月14日、参加者数250名)等を開催した。  
     ・主催イベント  
     7周年イベント高千穂神楽、椎葉神楽公演ときゅーはくミュージアムコンサート100回突破記念「朝崎郁恵 奄美を唄う」を同時開催した(期間:10月13、14日、参加者数1,080名)  
     ・各種団体主催イベント  
     鞠智城シンポジウム(期間:9月22日、参加者数:400名)、古事記編さん1300年 神話のふるさとみやざき展(期間:10月16日～10月29日、参加者数〔期間中来館者数〕:76,560名)等を開催した。  
 2) ・施設の利用実績  
     計 246件(うち 有償 86件)  
     ミュージアムホールの利用 66件(うち 有償 9件)  
     研修室の利用 88件(うち 有償 65件)  
     茶室の利用 36件(うち 有償 9件)  
     その他(エントランスホール 外) 50件(うち 有償 2件)  
     撮影利用 6件(うち 有償 1件)  
 3) コンサート  
     きゅーはくミュージアムコンサートを毎月開催した。



「茶の湯を楽しむV」関連茶会



「平山郁夫展」関連記念対談




高千穂神楽公演

【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
					施設の有効利用件数	246件	—	—
うち有償利用件数	86件	—	—	45	69	76	90	



総合的評価 S (A) B C F (S、Fの理由)

**【中期計画記載事項】**  
 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。  
 また、保有資産の管理を徹底する。とくに環境汚染物質については、法令に則り適正な処置を講じる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。 順調

中項目	4 保有資産の有効利用の推進							
事業名	保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長 六川真五					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。</li> <li>・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを今年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。</li> </ul>								
【補足事項】								
								
第46回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」								
【定量的評価】								
項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
施設の有効利用件数	195件	—	—		140	178	196	181
うち有償利用件数	24件	—	—		21	13	12	20
総合的評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	4 保有資産の有効利用の推進																												
事業名	保有資産の有効利用の推進																												
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。																													
担当部課	研究支援推進部	事業責任者	研究支援推進部次長 上田浩司																										
【実績・成果】																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th colspan="2">平成 24 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>75 件</td> <td>(内 有償貸与 8 件)</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>117 件</td> <td>(内 有償貸与 3 件)</td> </tr> <tr> <td>寄宿舍施設</td> <td>1,107 件</td> <td>(内 有償貸与 44 件)</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館講堂</td> <td>10 件</td> <td>(内 有償貸与 0 件)</td> </tr> <tr> <td>その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)</td> <td>19 件</td> <td>(内 有償貸与 13 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,328 件</td> <td>(内 有償貸与 68 件)</td> </tr> </tbody> </table>									施設名	平成 24 年度		平城宮跡資料館講堂	75 件	(内 有償貸与 8 件)	平城宮跡資料館小講堂	117 件	(内 有償貸与 3 件)	寄宿舍施設	1,107 件	(内 有償貸与 44 件)	飛鳥資料館講堂	10 件	(内 有償貸与 0 件)	その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	19 件	(内 有償貸与 13 件)	合計	1,328 件	(内 有償貸与 68 件)
施設名	平成 24 年度																												
平城宮跡資料館講堂	75 件	(内 有償貸与 8 件)																											
平城宮跡資料館小講堂	117 件	(内 有償貸与 3 件)																											
寄宿舍施設	1,107 件	(内 有償貸与 44 件)																											
飛鳥資料館講堂	10 件	(内 有償貸与 0 件)																											
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	19 件	(内 有償貸与 13 件)																											
合計	1,328 件	(内 有償貸与 68 件)																											
<ul style="list-style-type: none"> <li>一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイト上での施設利用紹介等による積極的有効利用(貸付等)の促進を図った。</li> <li>奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。</li> <li>上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。</li> </ul>																													
【補足事項】 平成 23 年度実績																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th colspan="2">平成 23 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>105 件</td> <td>(内 有償貸与 3 件)</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>144 件</td> <td>(内 有償貸与 15 件)</td> </tr> <tr> <td>寄宿舍施設</td> <td>1,116 件</td> <td>(内 有償貸与 21 件)</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館講堂</td> <td>67 件</td> <td>(内 有償貸与 0 件)</td> </tr> <tr> <td>その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)</td> <td>17 件</td> <td>(内 有償貸与 13 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,449 件</td> <td>(内 有償貸与 52 件)</td> </tr> </tbody> </table>									施設名	平成 23 年度		平城宮跡資料館講堂	105 件	(内 有償貸与 3 件)	平城宮跡資料館小講堂	144 件	(内 有償貸与 15 件)	寄宿舍施設	1,116 件	(内 有償貸与 21 件)	飛鳥資料館講堂	67 件	(内 有償貸与 0 件)	その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	17 件	(内 有償貸与 13 件)	合計	1,449 件	(内 有償貸与 52 件)
施設名	平成 23 年度																												
平城宮跡資料館講堂	105 件	(内 有償貸与 3 件)																											
平城宮跡資料館小講堂	144 件	(内 有償貸与 15 件)																											
寄宿舍施設	1,116 件	(内 有償貸与 21 件)																											
飛鳥資料館講堂	67 件	(内 有償貸与 0 件)																											
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	17 件	(内 有償貸与 13 件)																											
合計	1,449 件	(内 有償貸与 52 件)																											
【定量的評価】																													
項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																					
施設の有効利用件数	1,328 件	—	—	—	2,079	1,211	1,489	1,449																					
うち有償利用件数	68 件	—	—		71	40	105	52																					
総合的評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																												
【中期計画記載事項】 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。																													
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																									

中項目	5 内部統制の充実・強化								
事業名	(1) 理事長のマネジメント強化								
<p><b>【年度計画】</b></p> <p>1) モニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検評価を行う。</li> <li>・監事監査を行う。</li> <li>・内部監査を行う。</li> </ul> <p>2) リスクマネジメントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する諸規程を整備する。</li> <li>・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。</li> </ul>									
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典						
<p><b>【実績・成果】</b></p> <p>1) モニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検評価を行い、『平成23年度 独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(24年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮した自己点検評価報告書の作成に向けて、作成マニュアルの見直しを行い、各施設の評価担当を対象に報告書作成に関する説明会を実施した(24年11月29日・30日)。</li> <li>・監事による定期監査(24年6月25日)を行った他、臨時監査を本部・東京国立博物館(25年1月10日・31日)、東京文化財研究所(25年2月8日)を対象に行った。</li> <li>・内部監査を、24年10月29日～11月16日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。</li> </ul> <p>2) リスクマネジメントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行ったが、改訂の必要はなかった。</li> <li>・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを随時行い、東京国立博物館では来館者・職員・収蔵品のそれぞれを対象とする改訂を行うとともに、簡易版も作成した。</li> </ul>									
<p><b>【補足事項】</b></p> <p>1) 定期監査は、業務の監査(機構の業務運営状況、調査研究活動の実施状況等の監査)及び会計の監査(決算の状況、契約の状況等の監査)を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時監査は、業務及び会計についての実地監査を、特に施設整備の状況、収蔵品・研究機器等に係る資産管理、ミュージアムショップ・レストラン等業務委託の契約状況等に重点を置いて実施した。</li> </ul> <p>2) 東京国立博物館の危機管理マニュアルの見直しにおいては、一斉帰宅の抑制の推進等を目的とし、25年4月から施行される東京都帰宅困難者対策条例への対応を盛り込んだ改定を行った。</p>									
 <p>『平成23年度 独立行政法人国立文化財機構 自己点検評価報告書』</p>			 <p>独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト 23年度評価結果のページ</p>						
<b>【定量的評価】</b>	項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
	—	—	—	—		—	—	—	—
総合的評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)								
<p><b>【中期計画記載事項】</b></p> <p>理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	5 内部統制の充実・強化							
事業名	(2) 外部有識者による事業評価							
【年度計画】								
1) 運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。								
2) 職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。								
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】								
1) 運営委員会(24年8月1日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会:24年4月17日、博物館調査研究等部会:4月27日、総会:5月30日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。								
2) (各種研修について詳細は処理番号0230参照)								
【補足事項】								
								
運営委員会(24年8月1日)				外部評価委員会総会(24年5月30日)				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
-	-	-	-		-	-	-	-
総合的評価	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	5 内部統制の充実・強化							
事業名	(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善							
【年度計画】								
1) 情報セキュリティについて定期監査等を実施する。								
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】								
1) ・保有個人情報管理監査を、本部事務局・東京国立博物館(25年1月31日)、東京文化財研究所(25年2月8日)を対象に実施した。 ・個人情報研修を機構内のほぼ全職員を対象に実施した。 ・情報システム監査を、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(24年10月11日)を対象に実施した。 ・情報システム自己点検・評価について、今回はセキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した(24年4月)。								
【補足事項】								
○24年8月17日に奈良国立博物館ウェブサイトについて、一部改ざんがなされたため、同館ウェブサイトの一部の運用を停止して復旧及び対策を行い、24年8月24日に停止部分のサービスを再開した。これを受けて、情報化委員会において、機構全体でのこれまで以上のセキュリティ強化について検討し、セキュリティ対策情報の共有、緊密な連携等を図ることを確認し、実施した。								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—		—	—	—	—
総合的評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				